

第98回 日本繁殖生物学会大会開催要領

皆様、静岡へようこそ！

第98回日本繁殖生物学会大会を下記の要領で開催いたします。

本大会では、優秀発表賞二次審査（口頭発表部門：8題，ポスター発表部門：3題），一般発表（156題：口頭発表80題，ポスター発表76題）に加えて，日豪合同シンポジウム，若手企画シンポジウム，特別講演，ランチョンセミナー，公開講座が催されます。

今回の静岡大会では，会員のための口頭発表に十分な時間を確保し（10分発表，5分議論の予定），また，ポスターセッションについても，ポスターを見る時間と議論できる時間を十分に設けています。従って，最新の研究成果について，是非とも活発で建設的な議論をして頂きたいと考えています。

優秀発表賞は，エントリーがあった発表について一次審査（書類選考）によりすでに口頭発表部門：8題，ポスター発表部門：3題が選出されており，初日のスターティング・プログラムとして二次審査が行われます。優秀発表賞は，研究内容に加えてプレゼンそのものと発表後の議論にも評価の重点が置かれますので，二次審査に望まれる方は，十分な準備をし，本番に望んでください。

静岡大会では口頭発表に十分な時間を確保し，更に日豪合同シンポジウム，特別講演等の企画も盛り込んだため，スケジュールの関係上10名以上の方々に口頭発表からポスター発表に変更して頂きました。変更を受け入れて下さった方々に対して，この紙面を借りてお礼申し上げます。

初日の優秀発表賞の二次審査に続き，午後には，本学会初の試みである日豪合同シンポジウムが開催されます。後のページにテーマ，演者および内容が詳しく記述されています。このシンポジウムに多数ご参加くださり，議論を盛り上げて頂ければと考えています。

また，2日目の午後には，精子生理と低温保存の第一人者である Dr. Mary M. Buhr (Ontario Agricultural College, University of Guelph, Canada)および卵巣などの血管構築についての形態学的解析で著名な Dr. Guido Macchiarelli (Department of Experimental Medicine, University of L'Aquila, Italy)の特別講演を予定していますので，ご期待下さい。

最終日（9月16日）の夕方には，「都市・地域社会における野生動物との共生への道」と題して公開講座を開催します。本企画は次世代を担う若い方だけでなく，その対象を一般社会人や行政担当者などにも広げ，われわれの生活圏内の身近にいる野生動物，とくに昨年来，新聞，テレビなどで話題になっているクマ，カラス，シカ，イノシシおよびサルとどう向き合っていけばいいか，新たな共生を考える機会を提供することを目的としていますが，大会参加者の方々もこの講座に多数参加くださるようお願いいたします。

静岡大会関係者一同，皆様方が静岡で充実した3日間を過ごしていただけますよう，祈っております。

記

1. 期 日 2005年9月13日（火） 評議員会，各種委員会
14日（水） 優秀発表賞二次審査（口頭発表8題，ポスター発表3題），一般口頭発表，日豪合同シンポジウム，第6回若手企画シンポジウム
15日（木） 一般口頭発表，一般ポスター貼り出し，ランチョンセミナー，特別講演，総会，受賞者講演，優秀発表賞授与，懇親会
16日（金） 一般口頭発表，一般ポスター発表，公開講座

2. 会 場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

3. 会 長 番場 公雄

4. 連絡先 〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836
静岡大学農学部 第98回日本繁殖生物学会 大会事務局
(静岡大学農学部 動物生殖生理学研究室内)
TEL: 054-238-4869 FAX: 054-237-3028
大会専用 E-Mail: amjsar98@ipc.shizuoka.ac.jp

会 長 番場 公雄
事務局長 高坂 哲也
総 務 河原崎 達雄 (静岡県中小家畜試験場)
佐野 文彦 (静岡県畜産試験場)
辻井 弘忠 (信州大学農学部)
濱野 光市 (信州大学農学部)
高木 優二 (信州大学農学部)

5. 参加費 学会正会員 5,000 円
学生会員 3,000 円
非会員 6,500 円

但し、8月号と同封で事前送付される講演要旨集代を含みます。
発表予定者には講演要旨集が郵送されます。
参加費は当日会場の受付でお支払い下さい。

学会へは講演要旨集を御持参下さい！！

6. 一般講演

一般講演は、口頭発表（2会場；発表 10 分，議論 5 分）とポスター発表（1 時間）を行います。講演申し込みの折，分野を記入して頂きましたが，分野と講演内容を基に事務局で整理を行い，できるだけ近い内容が連続するようにアレンジしました。

7. 発表形式

口頭発表会場には，液晶プロジェクター（パワーポイント）方式を用います。各会場には，液晶プロジェクターとパソコン（PC）一式を用意します。基本的には，演台で演者が自らパソコンを操作して発表していただきますが，補助者が必要な場合は発表者側で操作願います。以下に条件の詳細を述べますので必ず熟読いただき，発表時のトラブルを避けるようお願いいたします。御存じのように，液晶プロジェクター方式で1度トラブルが発生すると，大きな時間のロスが発生し，セッション全体に影響します。

1) 口頭発表

- ・ 発表時間は 10 分，討論 5 分，計 15 分間です。演者は時間厳守をお願いします。
- ・ 演者は，発表されるセッションが始まる **60 分前まで（早い受付は大歓迎）**に，会場入り口付近に設置される窓口でファイル受付をすませてください。朝 9 時からのセッションの方は，**必ず前日夕方まで**に受付をすませてください。各セッションの開始までに，全ての演者のプレゼンテーションファイルをあらかじめパソコンへ移す作業を行います。
- ・ CD あるいは USB フラッシュメモリでファイルをご持参ください。また，今回静岡大会ではファイルの事前受付も行なう予定です。事前受付に関する要領は，JRD ホームページに 8 月中旬に掲載します。
- ・ 使用するパソコン（内蔵メモリ 256MB）の OS は，Windows XP，プレゼンテーションソフトは，PowerPoint 2003 です。ご持参いただくデータが，上記システムおよびソフトウェア上で問題なく操作できることを，必ず事前にご確認ください。
- ・ なお，不測の事態に備え，OHP による発表も可能なよう準備されることをお勧めいたします。

チェックリスト

- ・ プレゼンテーションは，PowerPoint で作成あるいは PowerPoint ファイルに変換されていますか？
- ・ ファイルは，Windows XP（システム）下の PowerPoint 2003（プレゼンテーションソフト）で，問題なく操作できますか？
- ・ アニメーションやその他容量の大きなファイルを用いて発表される場合，使用するパソコン（内蔵メモリ 256MB）の機能で，問題なく動作しますか？
- ・ ファイルを CD あるいは USB フラッシュメモリに保存しましたか？
- ・ 準備した CD あるいは USB フラッシュメモリからのファイル読み込みと動作の確認をしましたか？

Macintosh ユーザーの方へ（上記のほかに以下のことにご注意ください！）

- ・ プレゼンテーションは，Windows 版 PowerPoint ファイルに変換されていますか？
- ・ 変換されたファイルについて，Windows XP（システム）下の PowerPoint 2003（プレゼンテーションソフト）で操作した場合，文字化けや位置のずれなどを確認・修正しましたか？

2) ポスター発表

- ・ ポスター用ボードのサイズは、横 90 cm×縦 180 cm です。
- ・ 演者は 9 月 15 日 (金) の 8:30~16:00 間 (できれば午前中にお願ひします) に、2 F 展示コーナーに設置してあるボードにポスターを貼ってください。
- ・ ポスターは各自で用意した画びょうまたはピン (事務局では準備しません) で固定してください。
- ・ 演者は発表時間である 9 月 16 日 (金) の 11:00~12:00 の 60 分間は各自のポスターの前で対応してください。
- ・ ポスターは 9 月 16 日 (土) の夕方 17:00 までに撤去してください。

8. 優秀発表賞の二次審査方法

すでに一次審査が終了し、口頭発表部門：8 題、ポスター発表部門：3 題が選出されております。これらの演題が、学会評議員によって審査され、それらの評点をもって大会長が受賞者を決定します。この際、審査員はすべての発表の評点を行わなければなりません。従って、発表者はどの分野の研究者や大学院生にも興味を喚起し、理解できるプレゼンを求められます。受賞対象枠は、現時点では各部門 2 題程度を想定しています。ポスター発表部門では、座長のほかに司会者 (進行係) を設けておりますので、当日は司会者の指示に従って下さい。なお、今回の評点の項目と配点を列記しますので、予定者の方々は参考にして下さい。

口頭発表部門

・ 発表

- ✓ 研究の質 (20p) : 質の高い内容か?
- ✓ 口頭発表 (20p) : 分かりやすい発表か? (表現力など)
- ✓ スライド (10p) : 分かりやすいスライドか? (見やすさなど)
- ✓ バランス (10p) : 各セクション (イントロ, 方法, など) のバランス
- ✓ 要旨との整合性 (20p) : 要旨とのコーディネーション (要旨と発表内容が補完しあっているか?)

・ 質疑応答

- ✓ 質問に対する対応 (20p) : 質問に適確に答えられるか?

ポスター発表部門

・ ポスター

- ✓ 研究の質 (20p) : 質の高い内容か?
- ✓ テキスト (20p) : 適確で分かりやすいか?
- ✓ 図表 (10p) : 必要な情報が適確に分かりやすく提示されているか?
- ✓ バランス (10p) : 各セクション (イントロ, 方法, など) のバランス
- ✓ 要旨との整合性 (20p) : 要旨とのコーディネーション (要旨と発表内容が補完しあっているか?)

・ 質疑応答

- ✓ 質問に対する対応 (20p) : 質問に適確に答えられるか?

※ 2 分程度の簡単なプレゼンテーションをオーラルプレゼンテーションの直後に行い、ポスター内容を簡潔にアピールしていただきます。審査員による質疑応答は、通常の一般ポスター発表のスタイルに準じて行います。

9. 各種委員会（9月13日（水）「あざれあ」で開催、案内図ページ j10を参照）

- | | |
|---------------|-------------|
| 1) 理事会 | 17:00～18:30 |
| 2) 評議員会（食事付き） | 18:30～19:30 |
| 3) 編集委員会 | 16:00～17:00 |
| 4) 表彰選考委員会 | 15:00～16:00 |
| 5) 学術集会等検討委員会 | 15:00～16:00 |
| 6) 広報委員会 | 15:00～16:00 |
| 7) 若手奨励検討委員会 | 15:00～16:00 |

10. 日豪合同シンポジウム（9月14日、15時30分～18時30分、会場：第1会場（大ホール）

シンポジウムのテーマ：Towards 'Clean, Green and Ethical' Animal Reproduction [クリーン、グリーン、エシカル（清・緑・倫）な家畜繁殖システム]

私たち繁殖生物学研究者の研究の出口の一つである畜産業をとりまく社会的背景は、大きく変化してきています。すなわち、日本の消費者は狂牛病、口蹄疫、偽装詐欺事件などをきっかけ畜産物の流通段階だけでなく生産者にも安全・安心を求める姿勢がより強まってきています。一方、オーストラリアやニュージーランドのような畜産物輸出大国にとっても、主要顧客である欧州諸国等から安全・安心な畜産物を求められ、動物福祉的な観点で動物に優しい飼育方法も強く求められるようになってきており、深刻な状況にあります。また消費者の声の変化に応え、法規制を強化する国も増えてきています。そのため、これまで発展してきた飼養管理体系だけでは不十分になってきており、繁殖技術も例外ではなく改善が求められてきています。しかしながら日本においてもオーストラリア・ニュージーランドにおいても、このような問題に対する繁殖研究者の間の認識は少なく、多少なりとも戸惑いがある事が事実であり、具体的な研究戦略に対する展望も不十分です。また清・緑・倫な畜産でも、高コストや、実施困難な技術体系であってはなりません。そのため、動物の生理や行動に対する知識を深め、科学的な根拠の蓄積と明確な目的意識のもとに、長期的視点で畜産システムの改善に取り組んでいく必要がある。言うまでもなく畜産システムの生産性・利益率のカギとなるのは繁殖効率です。そこで、このような背景を踏まえて、今回の日本・オーストラリア・ニュージーランドの間で初めて開催される繁殖生物学会国際共同シンポジウムでは、薬物・ホルモン剤の利用量の削減、土地利用型畜産、動物福祉といったクリーン・グリーン・エシカル（清・緑・倫）な畜産のための繁殖研究という観点で、今後の研究展開の土台になる話題を提供していただき議論することにしました。

シンポジウムの内容と演者：

Welcome address

President of Japanese Society of Animal Reproduction (JSAR)

Dr. Eimei Sato, 佐藤英明（日本繁殖生物学会理事長，東北大学）

Opening address

Society for Reproductive Biology (SRB)

Dr. Graeme B Martin (University of Western Australia, Australia)

Purpose of the symposium

Dr. Taku Nagai, 永井卓（畜産草地研究所）

Session 1

1. Dr. Graeme B Martin (University of Western Australia, Australia).
 - Natural methods for increasing reproductive efficiency in small ruminants (羊など小型反芻動物の繁殖効率を高めるためのより自然な繁殖管理方法)
2. Dr. Akio Miyamoto, 宮本明夫 (帯広畜産大学)
 - A potential use of color ultrasound as a tool for reproductive management: New observations using color ultrasound scanning that were not possible with imaging only in black and white (カラーエコーの繁殖管理の新しい道具としての可能性: カラーエコーになって見つけられた事実)
3. Dr. Hiroya Kadokawa, 角川博哉 (畜産草地研究所)
 - New strategies for the reproductive management for lactating dairy cows, based on the relationship between leptin activity, other factors related to adipose tissue, and reproductive function. (レプチン分泌、脂肪組織に係わるその他の要因、生殖機能等から考える泌乳牛繁殖のための新たな戦略)

Session 2

4. Dr. Jeremy G. Thompson (University of Adelaide, Australia)
 - The impact of nutrition of the cumulus oocyte complex and embryo on subsequent development in ruminants (卵子と初期胚の栄養状態がその後の正常な胎子発育へ及ぼすインパクト)
5. Dr. Ken Nakada, 中田 健 (酪農学園大学)
 - The dairy cow knows her problem best: searching for a breakthrough for reproductive problems in Japan (乳牛は自分の問題を一番よく知っている: 日本における乳牛繁殖の問題解決の突破口を見つけるために)
6. Dr. Scott McDougall (Animal Health Centre, New Zealand)
 - Reproduction management and performance of New Zealand dairy cattle (季節繁殖と放牧を利用したニュージーランド酪農における乳牛の繁殖管理)

Closing address.

Dr. Masugi Nishihara, 西原真杉 (東京大学)

Dr. Graeme B Martin

11. 第5回若手企画シンポジウム (若手奨励策検討委員会主催) 会場: 小ホール

毎年恒例となりました若手企画シンポジウムを今年度も開催します。本シンポジウムは、若手研究者同士の交流や、若手会員の研究活動のエンカレッジメントを大きな目的としています。楽しく、活発で、「参加者一人ひとりが主役」となるシンポジウムとするべく、若手企画シンポジウム企画立案グループでは、現在、企画内容についてディスカッションを重ねています。シンポジウムの詳細は、決まり次第、若手奨励策検討委員会 web ページや学会メーリングリストを通じてお知らせします。

たくさんの若手研究者の方々にご出席いただきますようお願い申し上げます。もちろん「気分は若手研究者」の方、「昔は若手研究者の方」のご出席も大歓迎です。飲み物片手に研究のこと、学会のこと、将来のことを考え、語り合いましょう!!

日 時: 9月14日(水) 18:30~20:00

場 所: 小ホール

※本シンポジウムでは、軽食と飲み物を用意する予定です。

※若手奨励策検討委員会 web :

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsar/member/youngrep/young_index.html

12. 特別講演 (9月15日, 13時30分~15時30分, 会場: 第1会場 (大ホール))

特別講演では、精子生理と低温保存の第一人者である Dr. Mary M. Buhr と、卵巣などの血管構築についての形態学的解析で著名な Dr. Guido Macchiarelli から下記の興味深いテーマで講演頂きますので、ご期待下さい。

1. Dr. Mary M. Buhr

(Ontario Agricultural College, University of Guelph, Canada)

Title: Membrane composition affects sperm function and survival

2. Dr. Guido Macchiarelli

(Department of Experimental Medicine, University of L'Aquila, Italy)

Title: Ovarian vascularization in mammals as seen by scanning electron microscopy

13. 総会および受賞者講演

- 1) 総会 日時: 9月15日 (木) 16:00-17:00 会場: 第1会場 (大ホール)
- 2) 受賞者講演 日時: 9月15日 (木) 17:00-18:00 会場: 第1会場 (大ホール)

(1) 日本繁殖生物学会賞・学術賞

1. 「雄性生殖細胞の胚形成能に関する研究」

小倉 淳郎 会員 (理化学研究所筑波研究所バイオリソースセンター)

(2) 日本繁殖生物学会賞・技術賞

1. 「卵胞嚢腫の発生機序の解析と CIDR を用いた治療法の開発」

轟木 淳一 会員 (鹿児島県肝属家畜保健衛生所)

2. 「ハムスター及びウシの顕微受精の応用に関する研究」

堀内 俊孝 会員 (県立広島大学生命環境学部)

14. ランチョンセミナー

開催日：9月15日（木）12:30-13:20

会場：ランチョンセミナー会場（5F 501 会議室）

講師：北山康彦氏

（静岡済生会総合病院・臨床検査科病理／浜松医科大学非常勤講師）

共催：株式会社東屋医科器機・飯村一氏

演題：Microwave 及び Tissue array を用いた新たな分子遺伝学的手法

内容：近年，分子生物学的方法論は，基礎研究のみならず，臨床・応用分野にも急速に導入されるようになってきた。今回は，とくに Microwave 及び Tissue array を用いた新たな分子病理学的解析法について最近の知見を交えながら概要を紹介する。

15. 懇親会（立食パーティー形式）

温暖な気候と豊かな自然に恵まれた当地は，おいしい味覚の産地としても有名です。「とろろ汁」を始め，鰻，鮪，真っ黒なだし汁が特徴の「静岡おでん」，駿河湾でしか捕れない「桜えび」など賞味して頂ければ，一日の疲れも癒せ，会員同士の交流もさらに深まることと思います。お楽しみください。

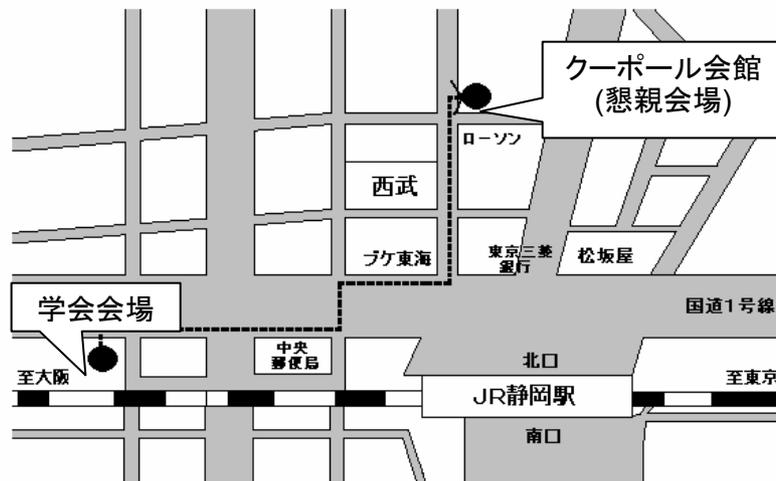
日時：9月15日（金）18:30-20:30

会場：懇親会会場（クーポール会館）：学会場より徒歩約10分

参加費：会員 4,000円

学生会員 2,000円

受け付け時にお払い下さい。



16. 公開講座

本企画は、次世代を担う若い方だけでなく、その対象を一般社会人、農業従事者、行政関係者などにも広げ、われわれの生活圏内の身近にいる野生動物、とくに昨年来新聞、テレビなどで話題になっているクマ、カラス、シカ、サルおよびイノシシとどう向き合っていけばいいか、新たな共生を考える機会の場を提供することを目的としています。

「都市・地域社会における野生動物との共生への道」

日時：9月16日（金）18時00分～20時00分

会場：第一会場（大ホール）

司 会：佐々田比呂志（東北大学農学部）

パネリスト：

坪田敏男氏（岐阜大学応用生物科学部獣医学講座）

「クマが人里に出没する原因とその対策 ～人とクマが安全に暮らすために～」

島田賢司氏（環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室）

「都会のカラス ～その被害と私たちにできること～」

大場孝裕氏（静岡県林業技術センター）

「増えるニホンジカ ～シカ問題とその対策について～」

酒井信尚氏（静岡県農林水産部みかん園芸室）

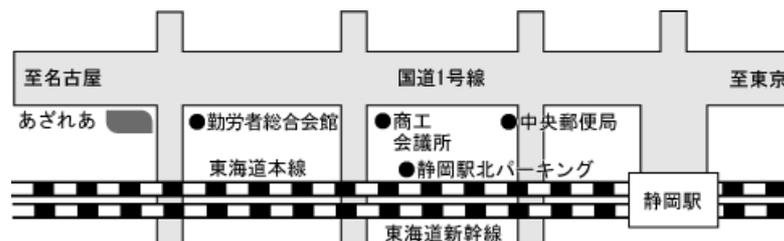
「農作物を食害するサルとイノシシ ～みんなで取り組む獣害対策～」

後援：静岡県

協賛：静岡県獣医師会，JA静岡経済連，富士農場サービス

17. 学会会場への案内（「あざれあ」ホームページ <http://azarea.pref.shizuoka.jp/azareahome.html> の交通アクセスにも詳細が載っています）

- 新幹線静岡駅から会場へのアクセス
 - ・静岡駅北口を出て左手の中央郵便局をまがり、国道1号沿いに西へまっすぐ、徒歩5分程度
 - ・タクシーで数分程度

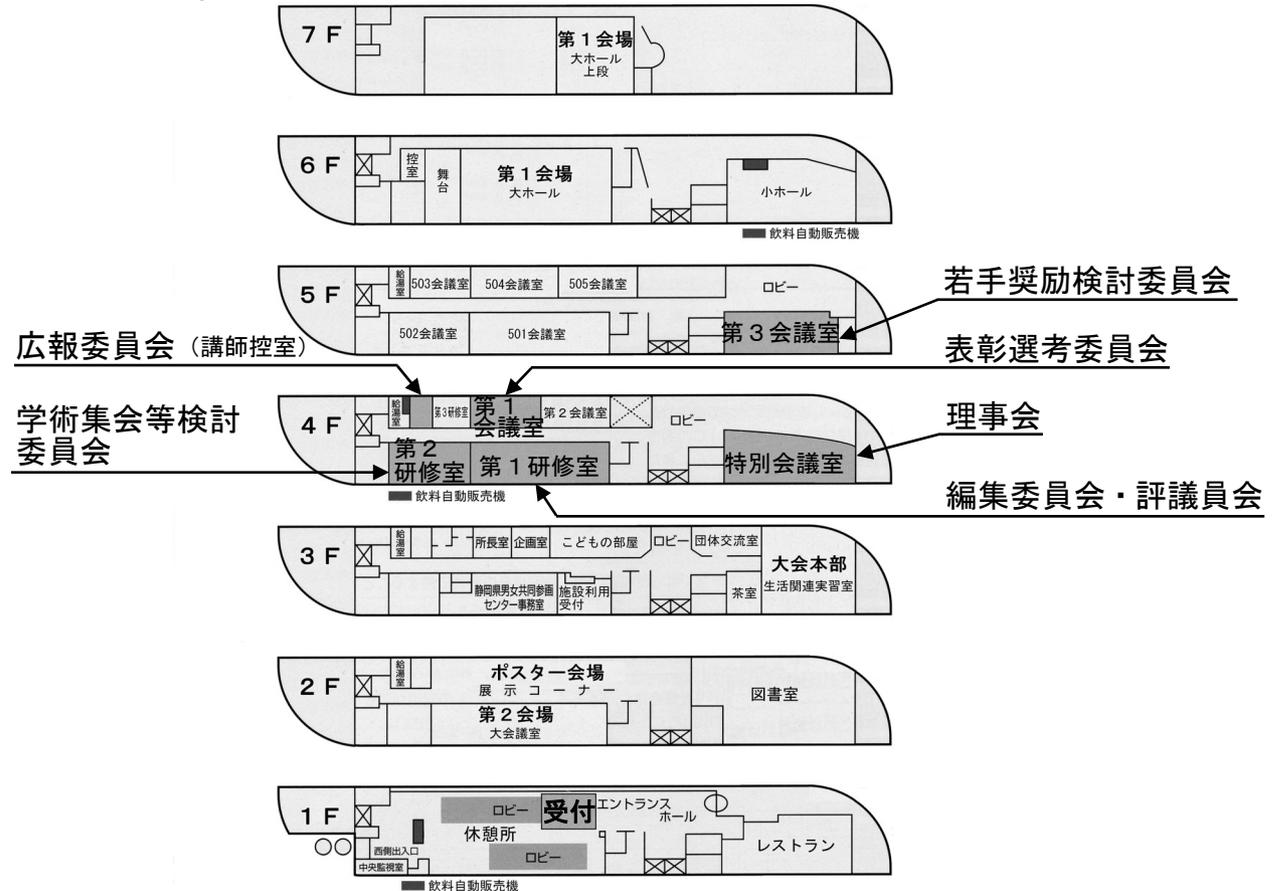


第 98 回日本繁殖生物学会会場「あざれあ」

各種委員会会場案内

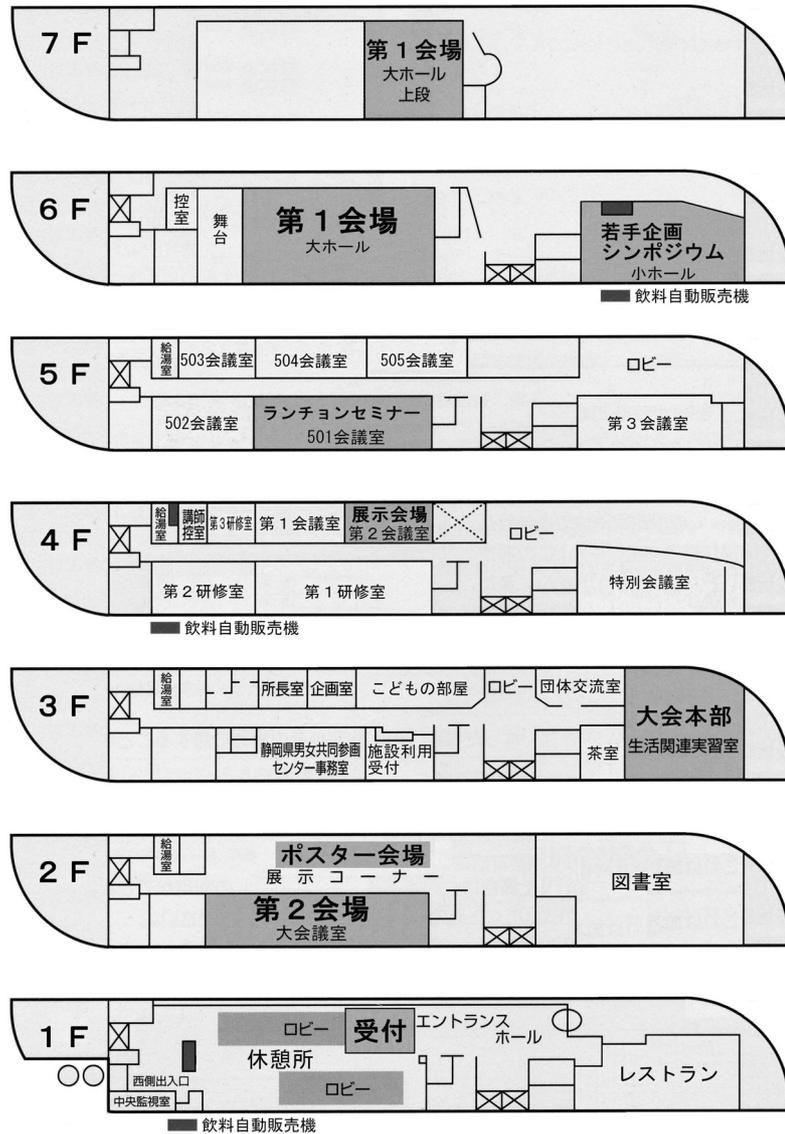
各種委員会出席者の皆様へのお願い

大会初日（9月14日）の朝、受付の混雑が予想されますので、委員会出席時に1階ロビーの受付（14時30分～）にて、大会受付をお済ませください。



使用会議室	委員会名	開催時間
第1会議室	表彰選考委員会	15:00～16:00
第2研修室	学術集会等検討委員会	15:00～16:00
第3会議室	若手奨励検討委員会	15:00～16:00
講師控室	広報委員会	15:00～16:00
第1研修室	編集委員会	16:00～17:00
特別会議室	理事会	17:00～18:30
第1研修室	評議員会	18:30～19:30

大会会場案内



第1会場（大ホール／6F） ……優秀発表賞（口頭発表）二次審査，一般口頭発表，日豪合同シンポジウム，特別講演，総会，受賞者講演，公開講座

第2会場（大会議室／2F） ……一般口頭発表

展示コーナー（2F） ……優秀発表賞（ポスター発表）二次審査，一般ポスター発表

小ホール（6F） ……若手企画シンポジウム

501 会議室（5F） ……ランチョンセミナー

ロビー（1F） ……休憩所

大会日程表

日付	時間	エントランスホール／ロビー	第1会場 (大ホール／6F)	第2会場 (大会議室／2F)	ポスター会場 (展示コーナー／2F)	小ホール	あざれあ館内 (J10参照)	501会議室	クーポール 会館
9月13日	15:00 19:30						各種委員会		
9月14日	8:30	大会受付			優秀ポスター賞 (ポスター貼り出し)				
	9:00	↓	優秀発表賞2次審査 (演題番号: 1-8)						
	11:00		ブレイク						
	11:30					優秀ポスター賞2次審査 (演題番号: 9-11)			
	12:15								
	12:15		昼食休憩						
	13:00								
	13:00		一般口頭発表 (演題番号: 12-19)	一般口頭発表 (演題番号: 52-59)					
	15:00		ブレイク						
	15:30		日豪合同シンポジウム						
	18:30						若手企画 シンポジウム		
20:00									
9月15日	8:30	大会受付							
	9:00	↓	一般口頭発表 (演題番号: 20-25)	一般口頭発表 (演題番号: 60-65)					
	10:30		ブレイク			一般ポスター貼り出し			
	11:00		一般口頭発表 (演題番号: 26-31)	一般口頭発表 (演題番号: 66-71)					
	12:30		昼食休憩					ランチョン セミナー	
	12:30								
	13:30		特別講演						
	15:30		ブレイク						
	16:00		総会						
	17:00		受賞者講演						
	17:00								
18:00									
18:30								懇親会	
9月16日	8:30	大会受付							
	9:00	↓	一般口頭発表 (演題番号: 32-37)	一般口頭発表 (演題番号: 72-77)					
	10:30		ブレイク						
	11:00					一般ポスター発表			
	12:00		昼食休憩						
	12:00								
	13:00		一般口頭発表 (演題番号: 38-45)	一般口頭発表 (演題番号: 78-85)					
	15:00		ブレイク						
	15:30		一般口頭発表 (演題番号: 46-51)	一般口頭発表 (演題番号: 86-91)					
	17:00								
	18:00		公開講座						
20:00									